

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程 (文化・教養)	国際エアライン科 エアラインコース	夜・通信	1,380	160	
	国際エアライン科 グランドスタッフコース	夜・通信	1,230	160	
	国際コミュニケーション科 ランゲージコース	夜・通信	1,320	160	
	国際コミュニケーション科 コンシェルジュコース	夜・通信	1,320	160	
	観光・ホテルブライダル科 観光ビジネスコース	夜・通信	1,350	160	
	観光・ホテルブライダル科 ホテル・ブライダルコース	夜・通信	1,560	160	
	国際交流科	夜・通信	2,250	240	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.s-air.ac.jp/entrance/basic.html

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人静岡理工科大学のホームページ (http://www.sist-net.ac.jp) にて公開中の事業報告書に記載

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社役員	平成29年10月1日～ 令和元年9月30日	学校法人運営についての意見 財務担当
非常勤	株式会社役員	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	学校法人運営についての意見 情報 IR 担当
(備考) 学外者である理事は上記の2名を含め合計8名。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の作成過程および公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 1月～ 次年度授業計画策定 2 2月～ 教員への授業計画(シラバス)作成依頼 <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)テンプレート配布 ・授業計画(シラバス)ガイドライン配布 3 3月～ 授業計画(シラバス)回収とチェック 6 6月～ 授業計画(シラバス)公表 	
授業計画書の公表方法	https://www.s-air.ac.jp/entrance/basic.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各学科の定めるディプロマポリシー(卒業認定/専門士授与の方針)に掲げる資質・能力の習得状況等は、カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)の「成績評価の方法」に掲げる方法に加え、学生生活上の客観的な指標、卒業対象学生に行うアンケート調査の状況、各種資格取得の状況、志望進路状況(専門領域への就職率及び進学率等)から学修成果の達成状況进行评估する。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0~100点)による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80~100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70~79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60~69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0~59点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数 = ((4×優の科目数)+(2×良の科目数)+(1×可の科目数))÷科目数

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.s-air.ac.jp/entrance/basic.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校を卒業する人材は、英語を中心とした外国語教育とマナー教育をベースに、航空・観光・国際ビジネス業界などにおける様々な接客サービスに関する専門知識や技能とプロ意識を持った人材育成が教育目標であり、学科コースごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- 専門職種に直結した知識・技能の習得と資格取得
- グローバル化社会に対応した、聞いて理解でき、話せる実践語学力
- 全ての仕事に通じるホスピタリティマインド(おもてなしの心)

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

全校共通および各科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、全ての科目を修得(不可科目がないこと)した者に卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.s-air.ac.jp/entrance/basic.html>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://sist-net.ac.jp/pdf/H30/kessan01_02-H30.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://sist-net.ac.jp/pdf/H30/kessan01_03-H30.pdf
財産目録	http://sist-net.ac.jp/pdf/H30/kessan01_01-H30.pdf
事業報告書	http://sist-net.ac.jp/pdf/H30/kessan02_01-H30.pdf
監事による監査報告（書）	http://sist-net.ac.jp/pdf/H30/kessan03_02-H30.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	国際エアライン科 エアラインコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,860 単位時間/単位	780 単位時間 /単位	300 単位時間 /単位	780 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,860 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		41人	2人	20人	26人	46人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・前年度末までにシラバスの作成を行うと共に年間授業予定表の作成も行う。 ※様式第2号の3の1を参照のこと
成績評価の基準・方法
（概要） ・シラバスに定める「成績評価の方法と基準」に基づき評価する。 ※様式第2号の3の3を参照のこと
卒業・進級の認定基準
（概要） ・必修科目、必修選択科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること ・学納金の未納がないこと ※様式第2号の3の4を参照のこと

学修支援等 (概要) ・検定試験を学内で実施し、学修成果を確認することができる ・個別指導の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 航空業界			
(就職指導内容) 個別面談の実施、業界セミナーの開催、個別履歴書・面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 秘書検定、TOEIC600点以上、日本赤十字社救急法救急員、手話検定5級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	1人	2.8%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制による状況把握、保護者との連携		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	国際エアライン科 グランドスタッフコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,860 単位時間/単位	780 単位時間 /単位	300 単位時間 /単位	780 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
		1,860 単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	53人	0人	20人	25人	45人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・前年度末までにシラバスの作成を行うと共に年間授業予定表の作成も行う。 ※様式第2号の3の1を参照のこと
成績評価の基準・方法
（概要） ・シラバスに定める「成績評価の方法と基準」に基づき評価する。 ※様式第2号の3の1を参照のこと
卒業・進級の認定基準
（概要） ・必修科目、必修選択科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること ・学納金の未納がないこと ※様式第2号の3の4を参照のこと
学修支援等
（概要） ・検定試験を学内で実施し、学修成果を確認することができる ・個別指導の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28人 (100%)	0人 (0%)	28人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 航空業界			
（就職指導内容） 個別面談の実施、業界セミナーの開催、個別履歴書・面接指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 国際航空貨物取扱士、日本赤十字社救急法救急員、TOEIC550点以上、手話検定5級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55人	1人	1.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更		

(中退防止・中退者支援のための取組)
担任制による状況把握、保護者との連携

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	国際コミュニケーション科 ランゲージコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,860 単位時間/単位	930 単位時間 /単位	330 単位時間 /単位	600 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,860 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		43人	1人	24人	30人	54人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) ・前年度末までにシラバスの作成を行うと共に年間授業予定表の作成も行う。 ※様式第2号の3の1を参照のこと
成績評価の基準・方法
(概要) ・シラバスに定める「成績評価の方法と基準」に基づき評価する。 ※様式第2号の3の3を参照のこと
卒業・進級の認定基準
(概要) ・必修科目、必修選択科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること ・学納金の未納がないこと ※様式第2号の3の4を参照のこと
学修支援等
(概要) ・検定試験を学内で実施し、学修成果を確認することができる ・個別指導の実施

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	10人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 国際物流業界、接客サービス業			

(就職指導内容) 個別面談の実施、業界セミナーの開催、個別履歴書・面接指導
(主な学修成果(資格・検定等)) TOEIC L&R、TOEIC Speaking、日商ビジネス英語検定2級
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35人	2人	5.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制による状況把握、保護者との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	国際コミュニケーション科 コンシエルジュコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,860 単位時間/単位	930 単位時間 /単位	270 単位時間 /単位	660 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,860 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		18人	0人	9人	32人	41人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) ・前年度末までにシラバスの作成を行うと共に年間授業予定表の作成も行う。 ※様式第2号の3の1を参照のこと
成績評価の基準・方法
(概要) ・シラバスに定める「成績評価の方法と基準」に基づき評価する。 ※様式第2号の3の3を参照のこと
卒業・進級の認定基準
(概要) ・必修科目、必修選択科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること ・学納金の未納がないこと ※様式第2号の3の4を参照のこと

学修支援等 (概要) ・検定試験を学内で実施し、学修成果を確認することができる ・個別指導の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	7人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 接客サービス業			
(就職指導内容) 個別面談の実施、業界セミナーの開催、個別履歴書・面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) ホスピタリティ検定、日本赤十字社救急法救急員			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	2人	11.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制による状況把握、保護者との連携		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	観光・ホテルプライダル科 観光ビジネスコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,860 単位時間/単位	930 単位時間 /単位	330 単位時間 /単位	600 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
		1,860 単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	12人	0人	20人	25人	45人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・前年度末までにシラバスの作成を行うと共に年間授業予定表の作成も行う。 ※様式第2号の3の1を参照のこと
成績評価の基準・方法
（概要） ・シラバスに定める「成績評価の方法と基準」に基づき評価する。 ※様式第2号の3の3を参照のこと
卒業・進級の認定基準
（概要） ・必修科目、必修選択科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること ・学納金の未納がないこと ※様式第2号の3の4を参照のこと
学修支援等
（概要） ・検定試験を学内で実施し、学修成果を確認することができる ・個別指導の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 旅行業界			
（就職指導内容） 個別面談の実施、業界セミナーの開催、個別履歴書・面接指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 総合旅行業務取扱管理者、国内旅行業務取扱管理者、国内旅程管理主任者、海外地理 検定3級			
（備考）（任意記載事項） 海外地理検定3級合格者内1名（専門学校部門第1位）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		

(中退防止・中退者支援のための取組)
担任制による状況把握、保護者との連携

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	観光・ホテルブライダル科 ホテル・ブライダルコース	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1,860 単位時間/単位	630 単位時間 /単位	510 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,860 単位時間/単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人	73人	3人	20人	25人	45人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) ・前年度末までにシラバスの作成を行うと共に年間授業予定表の作成も行う。 ※様式第2号の3の1を参照のこと
成績評価の基準・方法
(概要) ・シラバスに定める「成績評価の方法と基準」に基づき評価する。 ※様式第2号の3の3を参照のこと
卒業・進級の認定基準
(概要) ・必修科目、必修選択科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと ・総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること ・学納金の未納がないこと ※様式第2号の3の4を参照のこと
学修支援等
(概要) ・検定試験を学内で実施し、学修成果を確認することができる ・個別指導の実施

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30人 (100%)	0人 (0%)	30人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ホテル・ブライダル業界			
(就職指導内容) 個別面談の実施、業界セミナーの開催、個別履歴書・面接指導			

(主な学修成果 (資格・検定等)) レストランサービス技能検定 3 級、WBW ウエディングスペシャリスト、ホテルビジネス実務検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
64 人	1 人	1.6%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制による状況把握、保護者との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	国際交流科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,430 単位時間/単位	1,890 単位時間 /単位	540 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	
		1,860 単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	85 人	83 人	4 人	29 人	33 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) ・前年度末までにシラバスの作成を行うと共に年間授業予定表の作成も行う。 ※様式第 2 号の 3 の 1 を参照のこと
成績評価の基準・方法
(概要) ・シラバスに定める「成績評価の方法と基準」に基づき評価する。 ※様式第 2 号の 3 の 3 を参照のこと
卒業・進級の認定基準
(概要) ・必修科目、必修選択科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと ・総欠課時限数が年間消化時限数の 15%以内であること ・学納金の未納がないこと ※様式第 2 号の 3 の 4 を参照のこと

学修支援等 (概要) ・検定試験を学内で実施し、学修成果を確認することができる ・個別指導の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	17人 (89.5%)	2人 (10.5%)
(主な就職、業界等) ホテル業界、通訳業			
(就職指導内容) 個別面談の実施、業界セミナーの開催、個別履歴書・面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語能力試験 N1、N2 TOEIC600 点以上			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
82人	9人	10.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、帰国		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制による状況把握、保護者との連携		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
国際エアライン科	180,000 円	890,000 円	円	
観光・ホテルブライダル科	180,000 円	890,000 円	円	
国際コミュニケーション科	180,000 円	890,000 円	円	
国際交流科	150,000 円	680,000 円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
本校では人物、学力に優れ、他の模範となるであろうと認められる者に対し、学費を優遇する特待生制度がある。本校の行う特待生入試の試験結果に基づき特待生・準特待生 A・準特待生 B・準特待生 C を認定する。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.s-air.ac.jp/entrance/basic.html		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者として、関係団体の関係者並びに航空、観光等関連分野の企業実務者と共に、学校関係者評価委員会を設置し年 1 回開催する。 ・主な評価項目 (1)教育理念・目標 (2)教育活動 (3)教育成果 (4)学生支援 (5)教育環境 (6)学生の募集と受入れ (7)教職員組織、学校運営、管理、財務、法令等の遵守 (8)社会貢献・地域貢献、国際交流 ・評価委員の構成 定員 10 名 (企業 : 8 名 保護者 : 1 名 卒業生 1 名とする。) ・評価結果の活用方法 評価結果については、校長 (責任者) を中心とした運営委員会で改善方策を検討し、可能な限り早期に改善を実施する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日 (1 年)	企業等委員
矢崎部品株式会社	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日 (1 年)	企業等委員
株式会社センチュリーアンドカンパニー	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日 (1 年)	企業等委員
静鉄観光サービス株式会社	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日 (1 年)	企業等委員
株式会社ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア静岡	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日 (1 年)	企業等委員
株式会社フジドリームエアラインズ	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日 (1 年)	企業等委員
株式会社ドリームスカイ名古屋	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日 (1 年)	企業等委員

ANAエアポートサービス株式会社	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	企業等委員
在校生保護者	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	在校生保護者
卒業生(同窓会会長)	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.s-air.ac.jp/entrance/basic.html		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.s-air.ac.jp/entrance/basic.html
--